

# 制振性鋼材の12倍

## アーバンマテリアルズ合金を量産

金属素材研究開発のアーバンマテリアルズ（兵庫県芦屋市、大神田佳平社長）は、通常の鋼材より制振性を十二倍に高めた構造を部分的にそろえ、振動を吸収しやすくない。合金素材の仕上げ段階で、セ氏二百度の熱を加えながら薄く引き伸ばす。精密機器や半導体

ばし、不規則な構造の金属結晶を一部規則的な構造に変える。

振動を跳ね返す力が強い、硬く規則的な結晶部分と、振動を受け入れやすい軟らかく不規則な部分を混在させることで振動エネルギーを合金内部で吸収できるという。合金全体の品質を均一化したことで強度と加工性も高められ、0・一ミリの厚さにまで引き伸ばせる。

電炉メーカーに委託して年間百五十六トを生産する。精密機器や半導体

要を開拓、将来は自動車向けの利用も見込む。量産したのは同社が独自開発した合金「アルフェ」。鉄に八%のアルミニウムを加えた合金で、ほかの副原料を使っていない。合金素材の仕上げ段階で、セ氏二百度の熱を加えながら薄く引き伸ばす。精密機器や半導体

鉄とアルミ以外に特殊な原材料を使わないため量産化が進めば低価格化も可能と見ている。現在の販売価格は一キ当たり二千―三千円程度だが、将来はステンレスの価格より低い同数百円にまで引き下げたい考え。